

堺市のLRTと大小路筋周辺

KMテクノソリューションズ代表 南側 晃一

1. はじめに

今回は、堺市内を散策する。私の自宅の最寄駅である南海本線「羽衣駅」から各駅停車で難波方面へ1駅行くと「浜寺公園駅」がある。浜寺公園駅を下車して西に100m程度の位置に阪堺電鉄の「浜寺駅前停留所」がある。この駅でLRTに乗り込んで堺市の中心「大小路駅」で下車、大小路筋の東約800mにある堺市庁舎まで散策した。

2. 堺市が導入したLRT

2.1 南海本線「浜寺公園駅」の駅舎

浜寺公園駅（はまでらこうえんえき）は、大阪府堺市西区浜寺公園町二丁にある、南海電気鉄道南海本線の駅である。辰野金吾の設計により、1907年に建てられた木造平屋建ての駅舎は、1998年に国の登録有形文化財に登録されている。駅舎は現在の駅名に改められた時から現存するもので私鉄最古のもの。辰野金吾設計の木造平屋建ての洋風駅舎である。柱や梁を表に現したハーフティンバー様式で造られている。駅舎正面向かって右側にある、かつての1等待合室は現在「浜寺ステーションギャラリー」として使われ、左側は駅事務室となっている。テレビ番組等でもしばしば紹介され、近代建築の代表作の一つとして知られる。



南海本線「浜寺公園駅」の駅舎

2.2 阪堺線のLRT

堺市が導入したLRT (Light rail transit) 「堺トラム」が、2013年8月、我孫子道～浜寺駅前間で運行を開始。乗降口床の高さが35センチで既存車より30～40センチ低く、車いすやベビーカーも乗降しやすい仕様。乗降定員は76人（座席数27）。堺トラムは堺市が3分の2、国が3分の1の割合で負担して導入。2014年3月1日からは浜寺駅前～天王寺駅前間でも運行を開始した。天王寺駅前にある日本一高いビル「あべのハルカス」の3月7日グランドオープンに合わせての運行開始である。



阪堺電鉄「浜寺駅前停留所」



「浜寺駅前停留所」でLRTに乗車



LRTの運転席



LRTの車内

ライトレール (Light rail) とは、北米の「輸送力が軽量級な」都市旅客鉄道を指す。公共交通機関の意である「トランジット」を付記し、ライトレールトランジット (Light rail transit, LRT) とも呼ばれる。その定義の要点は「大部分を専用軌道とし、1両ないし数両編成の列車が走行する、誰にも利便性が高く低コストで輸送

能力の高い都市鉄道システム」である。

阪堺電気軌道株式会社は、大阪市内と堺市内で2路線の路面電車を運行している会社で、南海電気鉄道の完全子会社である。通称「阪堺電車」「阪堺電軌」。地元の人には「チン電」と呼ぶこともある。



紀州街道の真ん中を走るLRT



大小路駅で下車

堺市の交通計画としては、大阪市を中心として南北方向に発展してきた鉄軌道網に対して、LRTを導入することにより臨海部から都心を繋ぐ東西方向の交通軸を強化することが目的。加えて、LRTを中心とした公共交通や自転車利用の拡大を通じて、快適で環境負荷の少ない都市環境を創出。LRTが持つバリアフリーなどの特性を活かした都心のトランジットモール化により、歩いて楽しいまちづくりや沿線の賑わいを創出。さらにはLRTの架線レス化により、優れた都市景観の形成を図るなど先導的な改革を進める。将来的には、都心から市内各区の拠点間を結ぶ循環ルートの形成も含め、利便性の高い公共交通のネットワークを活かしたまちづくりをめざしている。

3. 大小路筋と竹内街道

竹内街道（たけのうちかいどう）は、大阪府堺市から東へ向かい、二上山の南麓・竹内峠を越えて、奈良県葛城市の長尾神社付近に至る約26kmの街道である。日本書紀の推古天皇21年（613年）の条に「難波（大阪）より京（飛鳥）に至る大道（おおじ）を置く」と記されていた日本最古の「官道」である。現在の竹内街道は、大部分は推古天皇時代の官道と重なっている。天武天皇元年7月1日（672年7月30日）の条に「会明に、西の方を臨み見れば、大津・丹比、両の道より、戦の衆多に至る」とみえ、壬申の乱にも使われていたことが分かり、長尾街道と竹内街道であると推定されている。大小路筋は竹内街道の西端部に位置している。



大小路筋（東側、奥に堺市庁舎が見える）



大小路筋の標識



竹内街道の標識



竹内街道の説明表示板

大小路筋には、堺駅と南海高野線堺東駅を最短で結ぶ路線として南海バスが経営するシャトルバスが運行している。堺シャトルバスとして平日 6 分毎・土休日 10 分毎で頻発しており、ノンステップ・ハイバックシート装備の専用中型車によるハイグレードサービスが行われている。南海本線「堺駅」から堺の中心市街地である「堺東駅」への交通手段として極めて便利であり、利用者も多い。



大小路筋を走行するシャトルバス

4. 大小路筋周辺

4.1 山之口商店街

山之口商店街は、堺市堺区を南北に縦断する路面電車、阪堺電軌鉄道の大小路駅から宿院駅に沿って3つのブロックからなる。山之口商店街の位置する旧堺地区は環濠地区とも呼ばれ、戦国時代から国際貿易港として繁栄を極め、有力商人を中心とした高度な自治が行われていた。明治時代から昭和初期にかけて堺市および大阪東南部の中心地として文化的、経済的に栄え今に至っている。

山之口商店街は、歌人・与謝野晶子の生家跡にも近い。200年以上の歴史があり、ピーク時に78店が軒を連ねた。現在、店舗数は半減しており、市や羽衣国際大学の支援を受け、イメージアップを図っている。改修後の商店街には、空き店舗を改装し、大正ロマンの風情を漂わせた「商店街プラザ」がオープン。与謝野晶子ゆかりの京都府与謝野町の特産品などを扱うほか、通りに晶子の歌を書いたバナー40本を立てたり、ガス灯風LED式電灯を設置したりしている。



山之口商店街の入口

4.2 開口神社（あぐちじんじゃ）

大小路筋の山之口商店街入口を入り、南へ約100m歩くと開口神社がある。社伝によると、神功皇后の三韓征伐の帰途、この地に塩土老翁神を祀るべしとの勅願により創建されたと伝えられている。古代から中世にかけて、当社付近は開口村と呼ばれていた。1945年（昭和20年）7月10日未明の堺大空襲により本殿と三重塔を含め焼失した。現在の社殿は1961年（昭和36年）の再建である。

境内には「大阪府立三国ヶ丘高等学校」の記念碑がある。明治28年、開口神社の境内に旧堺市庁舎があり、ここを仮校舎として三国ヶ丘高等学校が開校した。

また、「大阪府立泉陽高等学校」の記念碑もある。明治7年、この場所に女子教育の場として女紅場（女子に対して読み書き算盤や裁縫・手芸を授けた教育機関）が設置され、明治33年に堺市立堺高等女学校、明治45年に大阪府立堺高等女学校、昭和23年に学制改革により共学の大阪府立泉陽高等学校となった。なお余談ではあるが、女優の沢口靖子はこの学校の出身である。



開口神社の社殿



三国ヶ丘高校記念碑



泉陽高校記念碑

5. 堺市庁舎

旧庁舎の本館は、昭和19年（1944年）に建設されたもので、終戦をはさんで60年間市政の場として活躍した。人口増加や市政のニーズに対応するために増築を重ねた結果、庁舎は大変狭く迷路のようになり、また、老朽化と設備の不効率が著しく、耐震性や情報通信の発達にも十分対応できなくなってしまった。そこで、耐震性と防災機能を備えるとともに、市民サービスの向上と効率的な行政運営、あわせて都心地域の活性化を図るとの考え方にに基づき、庁舎建設計画を策定し、平成2年に高層館が完成し、平成16年2月に本館（2期棟）が完成した。

	高層館(1期棟)	本館(2期棟)
工期	昭和63年度から平成2年度	平成12年度から15年度
敷地面積	14,096平方メートル	
建築面積	1,070平方メートル	3,348平方メートル
延床面積	25,990平方メートル	38,319平方メートル
構造	(地下部) 鉄筋鉄骨コンクリート造 (地上部)鉄骨造	(地下部)鉄筋コンクリート造 (地上部) 鉄筋鉄骨コンクリート造 一部鉄骨造
階数	地下4階 地上21階 塔屋2階	地下3階 地上12階 塔屋1階
高さ	最高軒高84.6メートル 最高部の高さ94.6メートル	最高軒高51.2メートル 最高部の高さ59.8メートル 基準階高さ 4.0メートル



堺市庁舎（左：本館、右：高層館）



高層館の入口



高層館2階展望ロビー



2階からの展望（仁徳天皇陵古墳）



2階からの展望（堺東駅周辺）



市庁舎の北隣にある「銀座通り」

6. おわりに

今回は堺市の一部ではあるが、堺市の歴史と都市交通を考える散策となった。いつものことではあるが、散策していると読み間違いやすい地名に苦労する。例えば、「開口神社」は「あぐちじんじゃ」、「熊野小学校」は「ゆやしょうがっこう」、「東雲公園」は「しののめこうえん」などである。（以上）